

月・火休館、祝日開館 開館時間 9:30~17:00

月	火	水	木	金	土	日
月火曜日は休館日						1
2	3	4	5 陶芸教室 夜間開放	6	7 わくわく	8
9	10	11	12 陶芸教室 夜間開放	13	14	15 わくわく (予備日)
16 祝日 開館	17	18	19 陶芸教室 夜間開放	20	21	22 おさんぼ の会
23 祝日 開館 ブ講座	24	25	26 陶芸教室 夜間開放	27	28 ミニ ブ講座	29
30						

わくわく土曜日ランド 今月のご案内 〈川サバイバル!〉

町内の川に入り、いきものを捕まえて食べます。
どんな料理かは当日までのおたのしみ!

【日程】9月7日(土) ※予備日 9月15日(日)

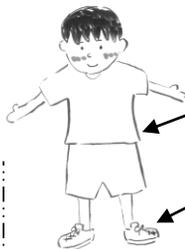
【時間】10:00~15:00

【集合】町民センター9:45/ブナセンター9:55

【対象】町内の小学1~6年生
※親子参加可。初参加の1年生は保護者同伴。

【定員】15名 【参加費】300円

【持ち物】濡れてもいい服装、濡れてもいい運動靴、
タオル、水筒、帽子、リュック、着替え、
軽めの昼食、マイカップ・はし、マイ食器



ぬれても乾きやすい化繊(ポリエステルやナイロン)の服がおすすめ。ラッシュガードや海パンも着用OK。

かかとが固定できるサンダルか、使い古した運動靴で。
かかとのないサンダル(ビーチサンダルやスリッパサンダル)はNG。

【申込み】前日の17:00までにブナセンターへ電話

【その他】雨天や川が増水した場合、予備日に延期もしくは中止

黒松内版・森林療法体験会

〈おさんぼの会〉

歌才森林公園のコース(往復約3キロ)を、季節の自然を楽しみながらウォーキングします。

【日程】9月22日(日) 10:00~12:00

【場所】黒松内温泉ぶなの森 左側集合

【参加費】無料

【持ち物】ウォーキングしやすい服装、靴、
帽子、飲み物、虫よけ

ブナセンター ミニ講座

〈枯木博士から見た森〉

枯れている木にも、生き物はやってきます。
いつもとは違う視点で、森を見てみませんか?

【講師】深澤遊先生(東北大学)

【日程】9月28日(土) 9:30~11:30

【集合】ブナセンター9:30

【内容】座学、枯木観察(ブナの小道)

【参加費】300円 ※ブナさぼメンバーは無料

【持ち物】野外で活動できる服装、虫よけ、
雨具、長靴

【申込み】前日17:00までにブナセンター

【定員】20名(小学生以下は保護者同伴)

ブナセンター講座

〈添別ブナ林 調査体験!〉

添別ブナ林には「長期固定調査プロット」が設置され、
さまざまな研究に使われています。一体どんなことが
分かってきたのでしょうか?最新の研究成果を学び、実
際どのような調査をするのか体験してみましょう!

【講師】斎藤秀之先生(北海道大学)

【日程】9月23日(月祝) 13:30~16:00

【集合】添別ミニビジターセンター13:30

または町民センター13:10

【内容】座学、現地観察・体験(添別ブナ林)

【参加費】300円 ※ブナさぼメンバーは無料

【持ち物】野外で活動できる服装、長靴、雨具、
帽子、のみもの、虫よけ

【申込み】前日17:00までにブナセンター

【定員】15名(小学生以下は保護者同伴)

「ブナセンター賞(研究助成)」をご存じですか?

黒松内町では、黒松内をフィールドとする研究を募集し、助成を行っています。研究成果は毎年3月に町民向けに発表され、研究者との交流・情報交換を図っています。今月の講師の斎藤先生は平成12年度の、深澤先生は令和6年度の受賞者です。話を聞けば、知られざる黒松内の姿が見えるかも…!



発行所: 黒松内町ブナセンター
〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内512-1
TEL 0136-72-4411 FAX 0136-72-4440

FacebookのQRコードはこちら

MAIL bunacent@host.or.jp HP <https://bunacent.host.jp>
FB <https://www.facebook.com/kuromatsunai.bunacent>

ヒグマ のコト

最近、町内でもヒグマの目撃情報やフン・足跡の発見が増えています。もし出会ってしまったらどうしよう？人身事故が起こったら？などと考えると恐くなってしまいますよね。ですが、ヒグマは北海道であればどこにでも生息する生きものです。むやみに恐れるのではなく、まずは、ヒグマの現状・生態・対処法を知るところから始めてみましょう。

今どうなっているの？

町内のヒグマ情報

(8月9日産業課聞き取り)

直近5年間のヒグマ出没件数の推移

年度	2020	2021	2022	2023	2024
出没件数 (年間)	18	29	24	29	22 ※8/9現在
7月のみ	4	6	1	10	14

春の出没件数は例年並みですが、7月の出没件数が多くなっています。また、主な出没場所は農地ですが、今年は道路の横断・散策路周辺での痕跡など、人目につくところでの出没も増えています。

★ヒグマの出没場所については「ひぐまっぷ」(<https://higumap.info/recent>)から確認できます。



ゆう 熊は何しに、このへんへ？

ヒグマの生態

何を食べている？

植物を中心とした雑食性。春～夏は草本類、秋は木の実(ミズナラやブナの実、コクワ、ヤマブドウ)などを食べます。今年の8月、歌オブナ林手前で発見されたフンは粗い繊維質で、フキを食べたフンでした。草が硬くなり食べ物が少なくなる夏には、農作物を食べることも(黒松内ではデントコーンなど)。

何をしています？

夏はほかの季節よりもよく動きまわります。その理由は食べ物を探す以外に、オスの場合はメスとの出会いを求め、若いオスが親離れをするなど様々です。秋は冬ごもりに向け、ひたすら木の実を食べて脂肪をつけます。

学習能力が高い

嗅覚が発達していて、生ごみや農・漁業の廃棄物・カップラーメンといったにおいの強いものに引きつけられやすく、一度、人の食べ物の味を覚えると、人里に現れる・建物に侵入する・人を見ても逃げないなど行動が大胆になっていきます。

＼まとめ／

ヒグマと暮らす3箇条

①音を出して、存在を知らせる

ヒグマは基本的に臆病ないきものです。人間の存在に気づけば、先に逃げてくれます。

②ごみを捨てない・放置しない

ヒグマは基本的に植物食ですが、一度、人間の食べ物の味を覚えると、人里に近づいてきます。生ごみや産業廃棄物を放置せず、ヒグマを寄せ付けないようにしましょう。

③走って逃げないこと

もし出会ってしまったら、落ち着くこと。走って逃げると、ヒグマが気になって追いかけてきます。

ヒグマがいるかもしれない 森の歩き方

黒松内には魅力的な自然がたくさんありますが、散策の際はヒグマとの適切な距離を保つために下記のような対策をしながら歩きましょう。

★出会わないために

ヒグマによる人身事故を避けるためには、「出会わない」ことが一番大切です。

①音を出す

熊鈴、手をたたく、声を出すなどで、ヒグマにこちらの存在を知らせます。ヒグマに逃げる余裕をつくってあげましょう。ただし、ヒグマが至近距離にいるとき(10~20m)は音を鳴らすと威嚇だと思われてしまい逆に危険です。

②ヒグマのサインを見落とさない

フン、あしあと、食痕、音(やぶの中からガサガサと音がするなど)、獣のにおいなどはヒグマが近くにいるサインです。目・耳・鼻をつかって散策し、異変に気づいたら引き返しましょう。

★出会ってしまったら

①絶対に、走って逃げない

逃げるとヒグマはつい追いかけてしまいます。まずは止まって、ヒグマを見ながら、ゆっくり後ずさりして離れましょう。

②「クマ撃退スプレー」を噴射する

すぐ取り出せる位置に身につけておきましょう。噴射距離は5mほど。

③防御姿勢(最後の手段)

ザックを背負ったまま地面に伏せて、首のうしろを手でおおい、足を開いてつま先で地面にふんばります。お腹や首(頸椎)を守ることができる姿勢です。

参考文献

・ヒグマを知ろうヒグマ・ノート(ヒグマの会,2020)・ヒグマ学入門(天野ほか,2006)
・ヒグマとつきあうヒトとキムンカムイの関係学(ヒグマの会,2010)・知床財団HP(2024.8.6閲覧)
・大雪高原温泉ヒグマ情報センター-HP(2024.8.6閲覧)